

9-2			
主題	「介護天気予報」を用いた特養ご利用者の健康管理の実践と地域医療との連携		
法人名・事業所名	社福）白秋会 特別養護老人ホーム泰山		
発表者（職種）	黒沢真穂（生活相談員）		
共同研究(実践)者	浦田祥美（看護師）		
電 話	03-5622-1165	F A X	03-5622-1673

事業所紹介	菖蒲園等自然が美しい江戸川の近くに在る特養です。法人全体で地域に密着し「歓迎されている」「尊重されている」「大切にされている」と感じて頂ける施設を目指して取り組んでいます。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

特養ご利用者の健康管理は法令に基づく管理の他、日々の健康状態の把握等により看護を中心に管理をしている。しかし、常に突発的に様々な病気を発症する可能性も高い特養の健康管理は課題が多くある。そこで、大事に至る前に気付く事が出来る様、ご利用者に近い介護職員が日々のご利用者の状況をチェックし、近隣病院と連携しＩＴを利用した「介護天気予報」を開始。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

施設内に留まりがちな特養の健康管理が地域医療機関との日常的な連携により充実する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

近隣病院が作成した介護天気予報健康チェックシートにより健康状況を、晴れ・曇り・雨、等に置き換え、毎日、介護職員がＰＣにご利用者の状況を入力し当該病院に送信、その後、内容に応じ医師、看護師が指導及び助言によりキックバックし連携した健康管理を実施する。

《4. 取り組みの結果》

介護天気予報のチェックにより、毎日の変化が読み取りやすくなったと同時に、委託医師だけでなく、多方面からのアプローチという観点がご利用者の健康管理充実となっている。当該病院医師、看護師との日常的な連携は、職員の職務向上と安心にもつながっている。

《5. 考察、まとめ》

いつでも・どこでも、を可能とするＩＴを利用した本取り組みは、介護職員によるご利用者の健康管理機能の強化となり、特養における地域包括ケアシステムの地域医療連携強化となった。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

当該病院長による介護天気予報に関する書・現代家庭医学大辞典 講談社・介護のための医学知識ハンドブック ナツメ社

《8. 提案と発信》

特養では法令に基づき健康管理が実施されていますが、ご利用者に直接的に関わる介護職員が速やかに判断できる健康管理手法の確立と地域医療連携の充実は、介護職員のスキルアップともなり、ご利用者、ご家族にとり、更に安心できる生活につながるものと考えております。